

原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム（案）

日時：平成 26 年 3 月 20 日 9：00－17：00

場所：建築会館ホール（150 人収容）

参加費：検討中（資料代、会場費相当を見込む）

開催主旨：日本地震工学会では、「原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会」（2012 年 9 月～2014 年 8 月／委員長：亀田弘行）を発足させ活動を行ってきた。同委員会は、原子力安全のための耐津波工学の体系化を目的としており、地震工学・津波工学・原子力安全工学の専門家が密接に連携する体制をとっている。本シンポジウムは、同委員会の 1.5 年間の活動報告を行うと共に、パネル討議において、産官学（事業者側、規制側、大学）から、安全から設備設計、防災に至る幅広い意見の収集と情報交換の場とし、特に、原子力安全に対する学術関係者の役割・責任について検証する機会としたい。

主催（予定）：日本地震工学会、日本原子力学会、土木学会

シンポジウムプログラム

1. 調査委員会の設置主旨と活動概要
2. 耐津波工学の体系化に向けた活動の中間報告
 - 1) 地震・津波工学に求められる原子力安全（外的事象、共通原因故障と深層防護の関わり）
 - 2) 既存発電所の地震・津波被害からの教訓（事故シナリオ、要求性能）
 - 3) リスク論に基づく津波防御の体系（設計（確定論的定式化）と評価（リスク論）の連携）
 - 4) 耐津波設計の概念構築（ハザード、フラジリティ）
 - 5) 敷地周辺を含む原子力防災と地域防災の連携
3. 津波への原子力安全に関する他機関の最新活動報告
 - 1) 日本原子力学会（津波 PRA）—宮野
 - 2) 土木学会—松山
 - 3) 日本電気協会—長澤
 - 4) 事業者（中電、東北電）—石黒、飯田
 - 5) JNES（IAEA-EBP の活動も含む）—蛭澤
4. 「原子力安全に対する学術関係者の役割・責任」に関するパネル討論
 - 1) 事業者の立場から（中電、東北電）
 - 2) 規制の立場から（規制庁からどなたか）
 - 3) 専門の立場から（原子力、土木、地震）
 - 4) メディアの立場から（NHK など）
 - 5) 総合討議
5. まとめ

実施に向けて (案)

実施体制：耐津波工学シンポジウム実施 WG

主査：高田

コアメンバー：香月*、松山、佐藤

成宮*、糸井、電力委員

杉野*、日高、東

(*は分野ごと責任者)

実施スケジュール

	9	10	11	12	1	2	3	
企画案決定		→						
関係者との交渉		→	→	→				
JAEE より告知				→	→	→	→	
資料作成準備					→	→		
実施							3/20	

パネル討論については、

事業者、規制、多分野からの専門家からの学術（学会）への要望や期待するものについて、議論しまとめる。